

宣言

ふるさととは竜王町やねん♪「近江牛^ひ発祥の地」を宣言

関連記事P19
NEW 追跡コーナー



議会だより

りゅうおう



No.177

2016年11月1日
滋賀県竜王町議会



平成27年度一般会計決算

定例会報告

町民1人当たり約50万円 3

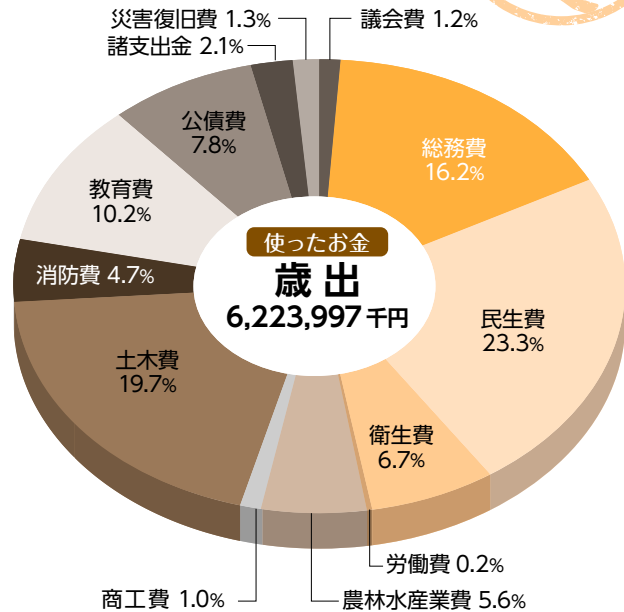
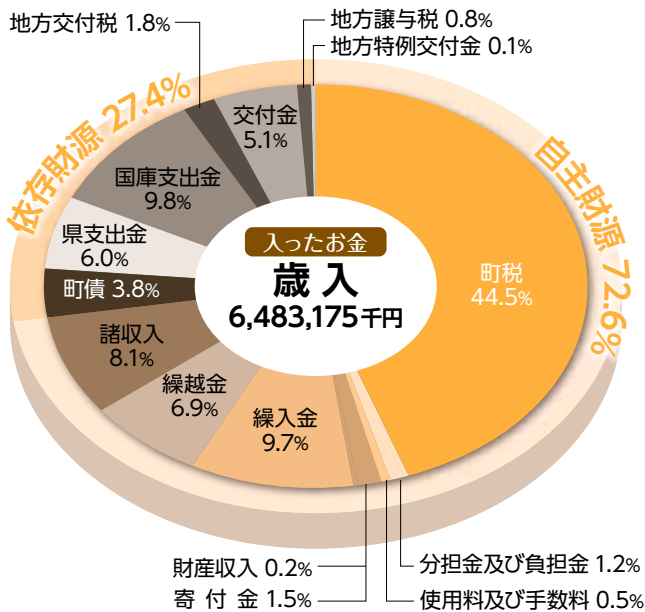
一般質問

子ども医療費助成が拡充 11

シリーズ

いきいき人生 20

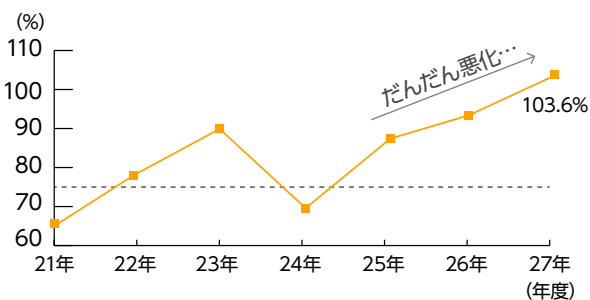
を慎重審査!!



決算審査の意見

決算内容については、ほぼ適正に運営されていると見受けました。しかし、財政構造の弾力性を判断する指標である経常収支比率が近年連続して大幅に悪化しています。今年度の悪化の主な要因は、歳出経費の増加もありますが、法人町民税の大きな減収に伴う町税収入総額の大きな減少によるものと言えます。

経常収支比率の推移



経常収支比率って？
毎年度経常的に収入される一般財源が経常的経費（人件費や扶助費、公債費など）にどの程度使用されているかをみるものです。町村ではおおむね75%未満が適正な水準とされています。



近江うし丸

～こんなことにもお金が使われました～



篠原駅および駅周辺の整備
総務費 3,830 万円



竜王消防出張所の土地造成
総務費 3,251 万円
防災拠点施設（水防備蓄倉庫など）の整備
消防費 4,921 万円

平成27年度

一般会計決算

第3回定例会は9月2日から27日までの26日間の会期で開かれました。今回の定例会では、人事案件、町条例の一部改正、一般・特別会計補正予算、平成27年度一般・特別会計決算認定などを審議し、請願1件を除き原案のとおり可決・認定等しました。

〈一般会計〉

おもな使いみち

町民1人当たり 約50万円

H28.3.31現在
人口12,432人

教育費



- ・小・中学校管理運営費
6,006万円
- ・幼稚園管理運営費
1,708万円
- ・給食センター費
6,306万円

衛生費



- ・ごみ収集事業
4,132万円
- ・中部清掃組合負担金
1億868万円
- ・布引ライフ組合負担金
5,230万円

消防費



- ・消防団運営事業
2,082万円
- ・東近江行政組合消防負担金
1億6,327万円
- ・防災資機材整備事業
408万円

土木費



- ・道路橋梁維持管理費
1,893万円
- ・道路橋梁整備事業
8,762万円
- ・総合運動公園管理運営事業
6,548万円

民生費



- ・後期高齢者医療費
1億3,714万円
- ・福祉医療費助成事業
8,357万円
- ・保育所運営費
2億688万円

総務費



- ・ふるさと納税推進費
5,035万円
- ・道の駅管理事業
1,041万円
- ・情報システム開発・管理事業
1,229万円

農林水産業費

- ・経営体育成支援事業
659万円
- ・多面的機能支払事業
4,733万円
- ・農林公園施設管理事業
4,670万円

公債費



- ・借金返済
4億8,410万円

諸支出金



- ・基金積立金
1億2,983万円

なぜ？どうして？徹底追究

Q 基金の中で、財政調整基金、減債基金、公共施設維持管理基金そして災害対策基金の残高が減少した理由は。

A 財政調整基金は、定期の満期ごとに取り崩していきましました。減債基金は、企業の減収による法人町民税の還付と町債の償還のためです。公共施設維持管理基金は、妹背の里の屋根修繕に充当し、災害対策基金は職員の防災用雨合羽購入のために取り崩したものです。

Q 社会福祉協議会への交付金が大幅に増加したのはなぜか。

A 地域福祉コーディネーターを含め2名の増員で、職員が6名となったことによる人件費の増加が主な要因です。

Q 公共交通対策費としての補助金が、コミュニティバス八幡竜王線が増え、赤字バス路線である岡屋線が減っている理由は何か。

A 八幡竜王線は、利用者が減っていることから補助金が増えました。また、岡屋線は、利用が少ない時間帯の減便と利用状況の変動による運送収入の増加により補助金が減りました。



一般会計、特別会計の決算は、それぞれに設置された特別委員会で、多くの質疑応答がされ慎重に審議されました。

特別会計の決算状況は？



国民健康保険事業

・入ったお金	12億8,916万円
・使ったお金	12億4,553万円
・差 引	4,362万円

・入ったお金	6,446万円
・使ったお金	5,709万円
・差 引	737万円



学校給食

・入ったお金	6,146万円
・使ったお金	6,101万円
・差 引	45万円



下水道事業

・入ったお金	6億7,625万円
・使ったお金	6億6,847万円
・差 引	778万円



介護保険

・入ったお金	8億3,372万円
・使ったお金	8億1,050万円
・差 引	2,322万円



後期高齢者医療

・入ったお金	8,802万円
・使ったお金	8,758万円
・差 引	44万円



水道事業会計

収益的収支(水道料金などの収支)

・収 入	3億4,492万円
・支 出	3億3,283万円
・差 引	1,209万円

資本的収支(施設建設などの収支)

・収 入	9,664万円
・支 出	1億8,058万円
・差 引	▲8,394万円



Q 認知症の啓発セミナーへの参加人数は増えているが、

A 現在では、これという目的はありませんが、平成30年度の国保の制度改正により、県への納付金が不足した場合に基金で対応していかなければならないと考えますが、詳細は検討中です。

Q 国保事業勘定の財政調整基金が9千万円ほどあるが、今後この基金をどの様に利用しようと考えているのか。

A 戸別訪問により滞納整理をして、収納率100%にしています。

Q 後期高齢者医療保険料は収納率100%であるが、納め忘れなどがある場合、戸別訪問で対応しているのか。

A 平成17年度から認知症の啓発をしています。先ずは認知症を正しく知ってもらおうということがスタートでした。認知症を知ることにより見守りをしていただけるようになります。しかし、認知症を正しく知るところを重点としているので、活動までに至っていない現状もあります。

なぜ？どうして？ 徹底追究



選任に同意
副町長に
とちき
えいし
榊 栄司氏

平成28年度一般会計補正予算(第2号)

5,342万1千円を増額、総額は63億1,850万2千円に。

- * 過年度に納付された町税の過納分の還付のための増額 750万円
- * 鏡地区揚水機場の水中ポンプの老朽化による更新のための増額 410万円
- * 国道477号線の歩道拡幅工事に伴う増額 3,011万円
- * 竜王小学校の給水設備の故障による改修のための増額 341万円 など

常任・特別委員会の活動

教育民生常任委員会

視察

健康長寿県 長野県《須坂市・松川村》へ視察研修

須坂市 介護認定率が長年低い
(長野県内19市の中で最も低い)



- ・「保健補導員」発祥の地
- ・介護予防サポーターの活動で、健康づくり、介護予防、生きがいづくりに貢献
- ・健康長寿発信都市
- ・「須坂エクササイズ」体操ユニットによる出前講座



須坂エクササイズ(須坂市パンフレットより)

松川村 男性平均寿命
日本一(平成25年)の村



- ・保健補導員や食生活改善推進協議会による長年の住民活動が村の健康長寿を支えている。

健康長寿の要因(長野県)

- ① 高い野菜摂取量
- ② 低い肥満者の割合
- ③ 高い高齢者就業率
- ④ 盛んな公民館活動



保健補導員とは

地域住民自ら、健康課題解決のために学習を重ね、家庭や地域で健康増進活動を実践。

昭和20年、旧高甫村で誕生し、須坂市全域で発足、県下に広がる。

調査

竜王町社会福祉協議会の取り組み

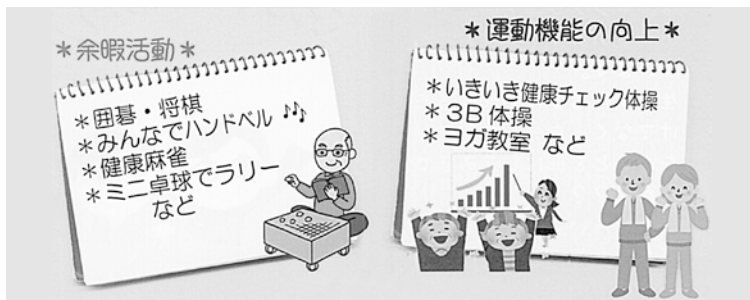
竜王町における地域福祉推進の中心的な担い手であり、住民主体の「福祉のまちづくり」を推進していく公共性の高い民間の社会福祉団体

- 事務局(所)：竜王町福祉ステーション2F
- 主な事業、活動
 - ・福祉委員会活動の支援
 - ・心配ごと相談所
 - ・介護保険事業
 - ・ボランティア活動の支援
 - ・ふれあいプラザでの活動
 - ・福祉の啓発
 - ・共同募金活動
 - ・各福祉団体との連携など
- 竜王町福祉課と連携
 - ・町受託事業の実施

問 日常生活自立支援事業で、利用者の金銭管理をされているが、注意点は何か。

答 重要物品のリストを双方が持ち、金融機関の貸金庫で保管している。

意見 現在の社会福祉協議会事務所は、町福祉ステーション2階にあり、住民から見えないので、今後、住民が気軽に出入りができる場所を検討してほしい。



ふれあいプラザで実施されている「生涯現役事業」の一例
(竜王町社会福祉協議会パンフレットより)

総務産業建設常任委員会

調査

防災の備蓄は

備蓄計画は

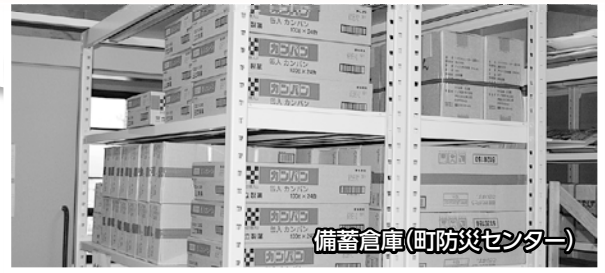
- ・備蓄目標の算定根拠となる避難者数
1,252世帯 3,056人（風水害時避難者数）
- ・備蓄目標量
3日分(5食) 15,280食

問 実際の備蓄量(食)は2,700食で、達成率は17.6%と県下で一番低い。

答 徐々に計画的に確実な備蓄をしていきたい。

問 土のう用のトン袋はいくつあり、その砂はどこにあるのか。

答 トン袋は100袋、砂は防災センター駐車場に若干あるが、これに対応する土砂はない。事前に建設工業会にお願いをしていくしかない。



備蓄倉庫(町防災センター)

審査

請願

TPP協定は

- ・「TPP協定を国会で批准しないことを求める請願」を審査

→ 3月国会においてTPP対策27年度補正予算事業(総額3,122億円)も採択され、竜王町でもその補助金をもとに事業を推進しているものもあるので、請願内容を慎重審査の結果、賛成少数で不採択と決定した。

地域活性化特別委員会

調査

滋賀竜王工業団地の進捗状況は

- ・造成関連事業などは、平成28年度中に完了予定。
- ・びわ湖環境ビジネスメッセ、東京でのびわこ立地フォーラムなどにも参加し、さらなる誘致活動を行う。

問 現時点で残っている工事は。

答 調整池のフェンス工事です。来年は、防災施設の備蓄倉庫、舗装工事などを計画している。



フェンス工事が予定されている1号調整池

調査

(株)雪国まいたけは

- ・パッケージセンターを除いた用地の有効活用については、現在、進出予定であった企業が辞退し、進んでいない。



埋蔵文化財調査中の工事予定地



人口減少対策特別委員会

視察

人口増加率10.5%

山梨県昭和町へ視察研修

- ・子どもを産みやすい(育てやすい)環境づくり
おまご講座(祖父母のための育児教室)
愛育会(住民組織活動)による赤ちゃん訪問事業
- ・子育て支援の3つの柱
 - ①大胆な保育料の軽減と多彩な民間7保育園
 - ②各小学校に隣接する児童館と「待機児童0」を目指す放課後児童クラブ
 - ③10年目を迎えたファミリーサポート事業

ファミリーサポートって？

子育てでなにか困った時、手助けして欲しい人(依頼会員)と手助けできる人(援助会員)とが会員となり、地域の中で、子育てを支えあう有償ボランティア活動です。

ちょっと出かける間、
子どもを預かってほしい。

上の子が熱い
赤ちゃんを病院へ
連れて行きたくない。
誰か見ていてほしい。



「ファミリーサポートしょうわ」パンフレットより



親子で楽しむ子育て教室「わくわくひろば」(2歳児)

調査

竜王町の子育て支援は

- ・こどもひろば、年齢別子育て教室の状況
- ・地域のサロン事業
- ・町健康推進協議会の活動

問 シルバー人材センターで、一時預かりはできるか。

答 ファミリーサポート事業が実施できないか調整中です。

問 社会福祉施策は人口減少対策とは切り離せないと思うが、町の今後の進め方は。

答 竜王町にとどまって、住み続けてもらえる環境を整えていく。

議会広報特別委員会

議会広報で視察を受け入れ

- ・4月から10月までの間に、他議会からの広報編集についての視察研修を受け入れました。

福岡県柳川市議会 (4月20日)
愛知県東郷町議会 (7月20日)
岡山県浅口市議会 (8月1日)
山梨県町村議会 (8月25日)
三重県川越町議会 (10月5日)



編集の手法、これからの課題など
活発な意見交換を行いました！

視察研修の受け入れ

町政 ここを聞く!

9月定例会では11議員が
28問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
9	山田 義明	ふるさと交電寄附金制度のさらなる充実を
10	松浦 博	新町長の方針と町財政の健全化に向けた取り組みは 祖父川左岸の高台造成による水害への影響は 前町長の町政からの継承は
11	古株 克彦	子どもの医療費助成制度の拡充は 住民福祉充実施策の町長の考えは
12	森山 敏夫	目標人口到達のための具体的施策は 土砂災害に対する備えと対策は万全か
13	内山 英作	地域自治コミュニティの再生を 民生委員児童委員協力員の設置は 日野川堤防は大丈夫か 健康でまちづくりを 新幹線「京都～米原」間に新駅を
14	貴多 正幸	公共施設の今後は 町有地の有効活用は
15	若井 猛志	農業の六次産業化・農業委員会法改正は 介護保険総合事業で何が変わったのか 国保税の引き下げを 子どもの医療費を中学卒業まで無料化することについて
16	小西 久次	町長の所信表明について問う 災害時避難所の耐震強化は 交通弱者対策は 学校施設の管理は
17	森島 芳男	IBM グラウンド跡地の状況は 滋賀竜王工業団地の企業誘致は
18	岡山 富男	若者定住、子育てしやすい住宅整備を 通学バス業務委託料の値上がりは 今後の地元企業の育成は
19	菱田 三男	新町政の具体的な取り組み方は

一般質問って?

町の行政全般について
議員が町長をはじめとして
担当部局に疑問点を質したり、
見解などを尋ねたりするもので、
毎定例会で行われるよ



近江うし丸

そうだ、傍聴に行ってみよう!

次回の一般質問12月20日(火)予定

議会事務局 ☎ 58-3713

問 ふるさと交電寄附制度のさらなる充実を

答 返礼品の品目の充実などに取り組む

問 ①新規に、また、継続して寄付をしていただくため、新たな取り組みはあるか。

②寄付者が竜王町に関心を深め、竜王町へ訪れてもらえることにつながるような取り組みはあるのか。

③寄付金は何に使われ、町民への周知は。

答 ①返礼品を対応いただいている現在13社の協力事業者による「ふる



山田 義明 議員

さと納税協力事業者連絡会」を8月に開催し、新たな協力事業者の掘り起こしや既存協力事業者については返礼品の充実を依頼した。事務代行業者では9月からポータルサイト「ふるさとチョイス」のトップページで紹介されている。また、11月のカタログ改定に向け、返礼品の充実と見せ方の工夫を考えている。さらに、一度寄付いただいた方へのお知らせメール配信を検討中である。

②返礼品として、送り届ける商品だけでなく体験メニューなどについても取り組みを進める。

③寄付の際に伺った使途に対する寄付者の意向を尊重し、これに沿った事業の経費に充当する予

定。このように充当した結果、元来充当していた一般財源が押し出されるので、これをまずは、寄付者への返礼品等の経費に充当し、次に、なお余剰となる一般財源は予算を重点配分する事業へ充当しようと考えているが、これについては、まずは、中学卒業までの医療費の無料化の財源としていく。寄付の使途については、決算認定後にホームページまたは広報紙で情報提供していく。



ふるさと納税のカタログ

問 新町長の方針と町財政の健全化に向けた取り組みは

答 個別具体策はタウンミーティングで明らかにする

問 町長はどのような理念のもと、町政に取り組まれるのか。

また、そのための町財政の健全化の取り組みは。

答 まちづくりの理念は、「明るく元気で活力溢れる強いまちを創ること」、また、「次世代に誇れる竜王町を創る」、「このまちに誇りを持ち、次世代にしっかりと引き継ぐことができる基盤をつくりあげること」であると考

えている。

町財政健全化の取り組みについては、歳出面

- ① 成長戦略の策定、実践・実行
- ② 教育・福祉医療・社会インフラの充実
- ③ 魅力ある農業の創生
- ④ 安心安全のまちづくり
- ⑤ 高品質の行政サービスの提供

西田町長の基本となる政策

においては、事業ごとに行政課題を明確にし、課題解決のための手段として最も効果的で効率的かどうかを十分検討することが重要だと考えている。補助金の一律削減や行事の2年に一度化等は町の活力を削ぐとの声もあり、慎重に検討する。

歳入面では、滋賀竜王工業団地への企業誘致を推進し、税収の増加に努め、豊かな農畜産物を生かした起業を促し、町の中からも雇用を生み出し新たな納税者の増加に繋げる。



松浦 博 議員

問 祖父川左岸の高台造成による水害への影響は

答 継続的な河床整正と堤防強化が必要

答 近年の異常気象と上流域の土地利用とが相まって短時間での水位上昇を確認しており、流す対策による河川水の越水防止が重要であることから、今後も継続的な河床整正としゅんせつ、堤防補強は必要である。祖父川下流合流部の日野川の改修には時間を要することから、上流の市と連携して住民の安全を守る取り組みを進めていく。

問 滋賀電王工業団地の造成地が高台となることから、祖父川の水害防止にとって新たな問題として心配しているがその対策はどうか。

また、上流の市には利益を生み出す川が、下流の竜王町ではリスクを負うような損得のある近隣関係でなく、人命と財産を守る政策実現に協働できる近隣外交をどのようにしていくのか。

また、祖父川は台風等の豪雨時には急激に水位が上



集落側堤防より高くなった工業団地の用地

問 前町長の町政からの継承は

答 良いところは残し、変えるべきところは大胆に変える

問 公約では「次世代に誇れる竜王町を創る」と謳われ、5つの基本政策を掲げられている。

そこで、前町政から、何を継承し、何を变えるのか、何を引き継がないのか、また新たに取り組む政策は何か。

答 緑あふれる自然や文化など素晴らしいところはしっかりと継承し、閉塞感や停滞感を感じるところは大胆に刷新・改革する。新たな町政で大事にする項目として「緊急・主要課題には組織横断的



親子でいも掘りに向かう幼稚園児ら
「豊かなまちを、この子たちに」

に、期日を定めたスピーディな対応」「民間経営感覚・知見を導入」「施策・計画の立案に加え、結果・成果を大事にし、その分析を次に生かす」「成果主義と適切な人事考課制度の導入運営」「責任体制の明確化、緊張感ある事業運営」「研修、自己啓発活動による人材育成」「専門性の高い職員の育成と高品質な行政サービスの提供」。

現時点での新たな取り組みとして、医療費の中学卒業まで無料化について早期に実現したい。



古株 克彦 議員

問 子どもの医療費助成制度の 拡充は

答 平成29年10月実施の予定

問 町長は、公約に掲げた中学卒業までの通院・入院の無料化をいつから実施する予定か。

答 平成28年第4回定例会において条例改正と補正予算を提案し、各機関のシステム改修、受給券の印刷、申請受付、医療機関への周知など時間を要することから、施行は平成29年10月1日を予定している。

問 制度を拡充し、中学卒業までの無料化を実施した場合の財政負担はどれくらい増えるのか。

答 本年度の寄付金は8月末現在、496件1779万4千円で、今年度3月末の見込みは約1億2500万円を見込んでいます。

問 ふるさと納税をこの制度の財源に充てる予定とのことだが、寄付金の収入見込みは。

答 推計では、対象者が1194人増え、年間3010万円程度増えるが見込まれる。さらに、各機関のシステム改修に約110万円、審査支払事務等の手数料として年間約270万円その他の諸経費が必要となる。



問 住民福祉充実施策の 町長の考えは

答 福祉を必要とする人に
対して平等に

問 高齢者の福祉対策の費用が増加の一途をたどる一方、子育て世代の福祉の充実はい世代に町内に住み続けてもらうために重要である。法人町民税が急激に落ち込む中で、どの様にバランスのとれたものにしていくのか。

答 行政に求められていることは、住み慣れた竜王町でいつまでも健康で、自己の尊厳を維持しながら、地域の人々と共に暮らしていけることだと考える。また妊娠から高齢期に至るまで、福祉を必要とする人に対して平等に提供されるものであると考える。福祉施策は、社会変化とともに

その需要は多岐にわたり質量とも増大し、平成28年度一般会計に占める割合は25%と高く、税負担も増加しているが、必要な支援が行えるよう財源確保に努めていきたい。

問 放課後児童クラブ（学童保育）については、まっぼっくり児童クラブが定員を超過しているが、これらの施設の充実はどのように考えているのか。

答 西っ子児童クラブについては、西小学校の空き教室を利用しながら設備の充実を図っていく。まっぼっくり児童クラブについてはいづれ増築を考えているが、財源との絡みがあり慎重に検討を重ねていく。



一輪車乗りを楽しむ子どもたち(まっぼっくり児童クラブ)



森山 敏夫 議員

問 前期基本計画の評価で重点プロジェクトのうち、定住人口戦略としてあげた8つの戦略について具体的な評価ができていない。この点をどう考えて後期基本計画の策定にあたったのか。

また、人口増への具体的な取り組みとして掲げた未活用資源の活用の各施策（既存住宅団地の空き区画への誘導、新規住宅団地の活用、空き家対策）については、進捗状況にすら触れていない。今後の施策は。

答 定住人口戦略については、人口減少に歯止

問 目標人口到達のための 具体的な施策は

答 際立った進捗がない状況

めをかけ増加に転じるための施策を位置付けたものである。各戦略において、直接何らかの指標を用いるなどした数値化による表現はできなかったが、その基本施策に客観統計指標を用いた評価を行い、その評価を踏まえて後期基本計画の策定に当たった。

また、人口増への具体的な取り組みとして掲げた未活用資源の活用については、際立った進捗がない状況。

各施策とも、困難な課題が山積している。人口増加への取り組みは、当町にとって重要な課題であり、行政だけでなく、町民や関係する団体・企業の協力が重要と認識している。

竜王町の将来像

“ひと”^{そだ}育ち ^{きらめ}みんなで煌く
交電^{さと}の郷

平成32年度 目標人口 14,000人

基本目標

重点プロジェクト
の設定

▲第五次竜王町総合計画

問 土砂災害に対する 備えと対策は万全か

答 情報の発信、周知に努める



問 竜王町では土砂災害危険箇所等について地域住民への周知はどのようにされているのか。

また、土砂災害警戒情報の発表は、いつ誰がどのように行うのか。さらに、指定地域の住民への避難情報はいつ誰が決定し発表するのか。

答 平成19年以降に順次、区域が指定・公表され、平成26年9月に土砂災害危険箇所等につき、



台風による鏡山麓の土石流跡

関係自治会への説明を行い、地域住民への周知をお願いした。この情報は、県ホームページ等でも周知されている。

土砂災害警戒情報は、大雨警報発表中かつ2時間先までの予測雨量を考慮した降雨指標が監視基準に達したとき、県と彦根地方気象台が共同で発表する。避難情報は、緊急放送による屋外トランペット放送をはじめ各種伝達手段により確実に当該地区の住民に伝達する。



内山 英作 議員

問 竜王町でも人口減少、核家族化、若者の流出などが進む中、これまで以上に地域のつながりの希薄化が心配される。

答 このような状況の中、地域の将来を話し合う

を通じて、今後の地域のあり方について語り合うことが大切である。このような活動が、全町的に広がるよう町職員などが出向き、話し合いの場づくりや意見を出しやすい雰囲気づくりなど、地域役員の負担軽減等の支援を行っている。

問 地域自治コミュニティの再生を

答 ワークショップで地域の将来を語り合う



本音が噴出、ワークショップ(弓削地区)

ことにより地域自治コミュニティを再生していくことが、現状打開の第一歩と考えるが、町長の考えは。

問

民生委員児童委員
協力員の設置は

答

来年中に結論を出す

問 民生委員児童委員に欠員が生じたり、ひとりの委員の受け持ち世帯数に極端なばらつきがあるなど、結果的に、その委員の活動負担に差ができ、住民にとっては不公平感があるのは良くない。

答 今後、民生委員児童委員協議会と協議を重ね、「協力員」の必要性について熟慮しつつ、受け持ち世帯数の改善を図るために民生委員児童委員の増員も選択肢の一つとして、次期の新しい民生委員児童委員の任期開始(本年12月)から一年以内に一定の結論を出したいと考えている。

民生委員児童委員は、住民の立場にたってまちの福祉を担うボランティアです。身近な相談相手です。



問 日野川堤防は大丈夫か

答 堤防強化等の対策を引き続き要望

問 日野川改修についての町長の考えは。堤防の浸食・洗掘および浸透状況とその対応はどうか。

省への働きかけを進める。下流部の河川改修が進んできたことから、洪水時の流速が速まっており、部分的な洗掘、浸食も確認されており、特に浸食などにより人的被害が予測される箇所については河川管理者に随時、対策を図ってもらうよう依頼している。



川底の洗掘を防ぐため、護岸ブロックが置かれている

答 任期中の最重要課題の一つとして取り組む。

国会議員、県会議員、県幹部などとの連携をさらに強化し、継続して、国交

このほかに、次の質問もしました。
・健康でまちづくりを
・新幹線「京都〜米原」間に新駅を

問 第五次竜王町総合計画後期基本計画の中に、「総務省から公共施設等総合管理計画の策定が求められている」とあるが、現在の進捗状況を伺う。

公共施設の 今後は

答 管理計画を本年度中に策定予定



貴多 正幸 議員



答 昨年度に町が保有する公共施設等の現状把握を行い、施設等の整備時期や規模、改修履歴等について整理を行った。本年度は、整理した結果をもとに公共施設等総合管理計画の策定に向けて検討を進めていく。

国や地方公共団体が保有する公共施設（学校・庁舎・公民館・道路・上下水道など）は、高度経済成長期以降の急激な人口増加と社会の変化に対応するため整備されたものが多く、近年その老朽化対策が全国的にも大きな課題となっています。



学校給食センター

老朽化が進む町内公共施設（一例）とその建築年

- *公民館 別館 1971年
- *竜王小学校 1971年
- *学校給食センター 1979年
- *竜王南部地区防災センター（岡屋）1972年
- *総合庁舎 1982年
- *上下水道管や町道なども……

問 町内に点在している町有地を有効に活用すべきと考えるが、特に須恵地先ならびに町道小口八重谷線沿いの小口地先町有地、国道477号沿いの小口地先町有地の今後について、どのような考えを持っているのか伺う。

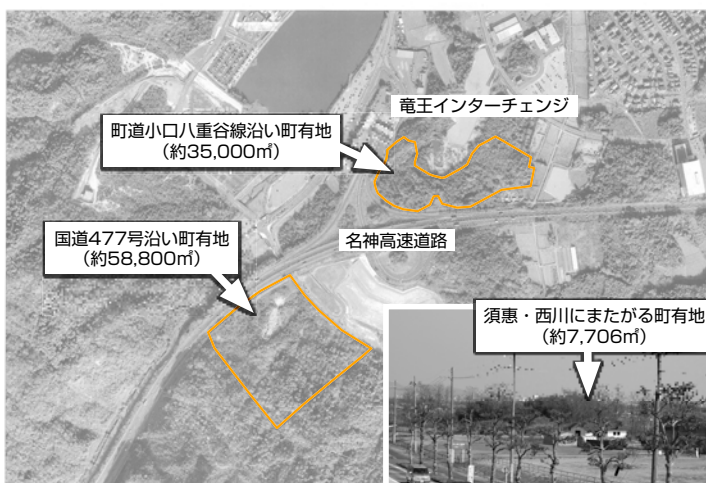
答 須恵地先の町有地については、子育て世代を呼び込む上で適性の高い土地であると考えている。現在、土地の利用を図るうえで必要となる地積の確定等に向けた準備を進めており、具体的な住宅整備の誘導とあわせ、鋭意取り組んで行く。

町道小口八重谷線沿いおよび国道477号沿いの小口地先町有地については、双方ともインフラの整備がない。特に、国

問 町有地の有効活用は適正に応じて町有地の活用を図る

道477号沿いの町有地へのインフラ整備については、竜王IC南交差点の橋梁および名神高速道路の横断を伴うことから多額の投資が必要となると考える。

土地の利用にあたっては、投資効果を十分に検証する必要があるが、町としては、産業拠点としての町の活性化に結び付けたいと考える。





若井 猛志 議員

問 農業の六次産業化・ 農業委員会法改正は

答 野菜などの観光農園の拡大を推進

問 農業の六次産業化の具体策は何か。また農業委員会法改正について、町農業委員会の提言に基づき対応を行っているか。

答 これまでの取り組みに加え、学校など他の機関と連携し開発を行うことや、農産物と畜産物を組み合わせた商品開発を推進したい。また、本町は果樹狩りの観光客も多いが、今後は果樹だけでなく野菜等の観光農園の拡大も推進したい。

農業委員会については、現在の機能が継続して行われるよう対応していく。



農地の現地視察

問 介護保険総合事業で 何が変わったのか

答 サービス内容は変わりません

問 今年度より開始された介護予防・日常生活支援総合事業で今までと変わる点は何か。

必要がない方を対象とした、送迎付の半日タイプの通所型サービスを開始した。

問 当町においては、制度移行前の介護予防訪問介護に相当する訪問型サービス、制度移行前の介護予防通所介護に相当する通所型サービスを開始した。また、新規の取り組みとして、入浴支援の

さらに、新たにNPO、民間事業者ならびにボランティアなど地域の多様な主体を活用して、高齢者を支える仕組みをつくる。また、高齢者が支え手側になることも想定し、地域の支え合い体制づくりを目指す。



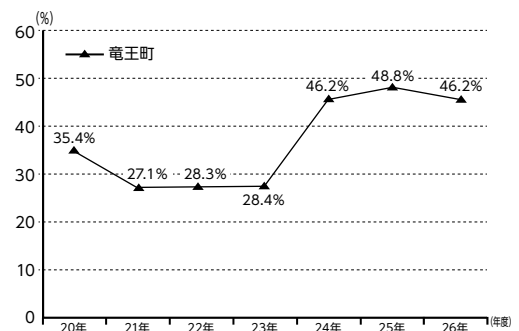
問 国保税の 引き下げを

答 引き下げの予定はない

問 国保税においても滞納が依然として多いと指摘されているが、原因は高すぎる国保税にあるのではないか。保険者支援制度や、国保基金を使つて引き下げができないか。

答 国保事業の大半は医療費であり、当町においても保険給付費は、年々増加している。保険者支援制度の拡充により保険税率を上げずに据え置いている状況である。

国保基金については、医療費の急騰など財源不足に備え積み立てするもので、今後とも保有していく。



特定健診受診率の推移(法定報告値)

このほかに、次の質問もしました。
・子どもの医療費を
中学卒業まで無料化することについて

問 町長が表明された基本施策について、人口増加のための住宅地整備を進める策は何か。また、専門性の高い行政サービスの具体的な考え方は。

問 町長の所信表明について問う

答 行政サービス全体の向上に努める



小西 久次 議員



整備を待つ庁舎周辺

答 住宅地の整備については、現行制度において実現が難しいことは認識しているが、特に総合庁舎周辺は魅力的な地域でもあり、国や県に働きかけを続け実現への可能性を探り、制度の見直し等変化を見逃さず実現に向け努力する。

適材適所の人事配置・人材育成などにより職員の能力向上を図り行政サービスの向上に努める。

答 建物の耐震性では昭和56年5月以前の耐震基準による避難所も散見されるが、これら建物の耐震診断・改修の有無の把握はできていない。県では自治会などの集会所などに對しては、耐震性確保のための経費として交付金措置があるが、町の財政負担も伴う制度となっているため、今後、その適用について研究を行う。

問 地震災害時の一時避難所47箇所のうち、そのほとんどが集落の公民館等であり、狭所・耐震が不十分であると思われるが、耐震強化の手立てはどうか。また集落単位での避難計画等の樹立と意識向上のための連携指導については。



耐震工事を待つ集落の公民館

問 災害時避難所の耐震強化は

答 耐震診断・改修の有無の把握はできていない

防災意識の連携指導は重要であり、各自治会での自主防災訓練による評価と検討を重ねることが地域になじむ避難計画の樹立につながると考えている。町においても消防防災推進員を配置し防災教育や訓練指導などを行ってきており、引き続き、地域リーダー育成や情報提供の支援を行っていく。

問 交通弱者対策は

答 広く意見を聞き再検討する



歩いて通院する高齢者

答 移動手段を持たない方の暮らしへの不安の声は多く、こうした方々の移動手段の充実是不可欠である。

公共交通機関の利用促進とも合わせ改めてを検討する。

問 車に乗ることのできない高齢者の通院・買い物施策は。

このほかに、次の質問もしました。
・学校施設の管理は



森島 芳男 議員

問 IBMグラウンド跡地の状況は

答 少しでも早く住宅地整備の実現を

答 当該地については、本町として住宅施策を進めるため、平成22年に住宅地を形成することを目標とした竜王町松陽台地区都市計画決定を行った。以降、町として住宅地開

問 IBMグラウンド跡地の活用については、長期にわたり進捗が見られない状態であり、早期に解決すべきだと思うが、現状をどのように認識されているか。早期活用に向けた町長の考えは。

発を進める方針は変わっていないが、開発事業者の都合により事業着手されない、また、不動産売買契約が契約不履行により解除されたことから、今日の状況に至っているところである。8月には、土地所有者の本社に出向き事業化に向けた取り組みを頂くよう強く要望させていただいたところである。

今後もあらゆる手法を模索し早期に住宅整備が実現できるよう努力する。



都市計画予定地

問 平成29年3月に完成予定となっている工業団地7区画のうち1区画においては、進出企業が決まっているが、あと6区画については早期の企業誘致が必要と考える。町長は、「企業トップ等人脈を活用する、経験を活かす、また自ら動く、まわりを動かす」と話されているが、どのようにトップセールスされるのか。

答 企業誘致トップセールスについては、県、公社幹部との人脈、関西の主要企業トップ、幹部への直接折衝や、土地情報に詳しい民間時代の取引先金融機関、不動産系企業とのパイプがあるので紹介斡旋の依頼を行って

問 滋賀竜王工業団地の企業誘致は

答 トップ自ら、誘致活動の先頭にたつ

いく。さらに、経済関係の各種団体を活用した誘致活動を行う。県と協働し、優良企業にきてもらえるよう人脈を駆使しトップ自ら誘致活動の先頭にたつて取り組んでいく。



完成が近づく滋賀竜王工業団地(7月末の進捗状況)

問 若者定住、子育てしやすい住宅整備を

答 住宅建設可能箇所を絞り込む



岡山 富男 議員



鵜川町有地(4,837㎡)

問 町長が考える若者定住、子育てしやすい住宅整備について伺う。

答 若者が求める新たな住宅地等の提供のため土地の有効活用を進めるとともに、子育てと仕事との両立をバックアップし安心して産み育てられる保育環境や雇用環境、子どもの教育環境を整備することが必要であり、このことが定住へと繋がるものと考えている。住宅建設可能箇所を絞り込む中で、住宅環境の整備と合わせ、保育環境、雇用環境、教育環境の整備を進めていきたい。

問 来年度、通学バス委託料はどれくらい値上がりをするのか。値上がりに対して、財源はどうするのか。また、値上がり分に対して保護者の負担はどれくらい増えるのか。

問 通学バス業務委託料の値上がりは現状の1.7倍に



運行中の通学バス

平成24年4月に発生した高速バス事故等により、国土交通省は、低賃金・過重労働の貸切バス労働環境の改善を図り、安全性向上への取組の一環として、その運賃制度の抜本的見直しを行い、平成26年4月から実施しました。

答 従来同様の利用を継続した場合、年間約3000万円となり現状の約1.7倍で、約1200万円値上がりが見込まれる。運行にかかる費用をできる限り抑制すること、必要な全額をおさえる。その上で、保護者負担額の増加の軽減にも配慮していく。

問 今後の地元企業の育成は

答 商工会への支援を通して取り組む



問 商工会の位置づけをどのように考えているか。

答 小規模事業者に対する「経営改善普及事業」として、きめ細やかな巡回や窓口指導・支援等、あわせて経済振興の発展を図るための「地域総合振興事業」として、いきいき宅配便事業や竜王町産業フェアの企画運営への主体的な取り組み、起業家支援セミナーの仲介など各種事業にも取り組んでいただいており、行政も商工会への支援をしていく中で、町内の商業の振興、町の経済発展に繋げていく。



町商工会の事務所がある商工会館



菱田 三男 議員

問 新町政の具体的な取り組み方は

答 人脈を生かして各種施策を実行する



問 町長は、「魅力ある豊かな成長する竜王町を創ります」との信念を述べられていたが、具体的にはどのようなことを実行されるのか。

答 これまで構築してきた人脈を活用し、企業誘致の促進や日野川河川改修、その他の主要課題に取り組む。地方創生関連

予算においても、いち早い情報収集にもとづき創意工夫し、他の自治体にも先駆け企画立案、プレゼンし、交付金、助成金など財政支援を得ていくことで、町にとって有効な施策を実行していく。また、必要に応じてコンサルや行政経験者等外部人材も活用していきたい。



追跡!!

あの一般質問はその後どうなった??



議員の質問に、当局がその後どのように対応し、どうなっているのかを追跡してみました

「近江牛発祥の地」を宣言できないか?

平成28年第1回定例会(一般質問より)

問 郷土の誇りと自信を持つて、全国に「近江牛(うし)発祥の地」を宣言してはどうか。

答 「竜王の近江牛」の歴史や文化に付加価値を加えて効果的に発信することを考えている。

その後

9月に、近江牛を基軸に町の特産品や歴史、文化などの町内資源を「スキヤキ」というキーワードで総結集させ、まちの魅力を発信するため「竜王町まるごと「スキヤキ」プロジェクト」を開催



世界に誇れる近江牛の発祥の地を宣言

「スキヤキ」プロジェクトが立ち上げられました。また、去る10月2日に開催された、竜王町産業フェアで、竜王町が「近江牛発祥の地」であることが西田町長により宣言されました。

シリーズ いきいき人生

岩井 さわ 澤 なおこ 直子 さん

幼少期からスポーツに取り組む大切さ



この夏、四年に一度のオリンピックが終わりました。スポーツは感動と興奮が私達にエネルギーを与えてくれると感じます。今回のオリンピックで特に感じたことは、活躍する多くの選手が幼い頃からその競技を始め、打ち込んできたということです。

それほどに幼少期から取り組むことが大事なんだなと思いました。

私は小学1年生の頃から24歳まで陸上（長距離）をやっていました。高校生の頃をピークにその後は故障に苦しみ引退しましたが、世界で戦うこ

とを経験し、その競技生活はとても素晴らしい記憶となり残っています。

また、そのためには環境もとても大事だと思いますが、ここ竜王にはドラゴンハットという素晴らしいスポーツ施設があるほか、希望が丘文化公園も近く、環境がとても良いところだと思います。その環境を生かし、ぜひ幼少期から様々なスポーツに取り組む子ども達が増え、このまちからオリンピック選手が誕生すればいいなあと願っています。また将来、一生懸命に打ち込んだ日々が、素晴らしい記憶となって残ると信じています。

澤さんの記録！

- ・3000m 8分56秒49
日本高校記録
(1999年9月26日～2005年10月13日迄)
- ・日本ジュニア記録
(1999年9月26日～2001年10月13日迄)
※ジュニアは20歳未満
- ・全国インターハイ3000m 優勝(9分04秒74) 1999年
- ・くまもと国体 3000m 優勝(8分57秒64) 1999年
- ・世界クロスカントリー選手権 ジュニア女子 6km
日本代表 団体3位 1999年、2001年

編集後記

山梨県昭和町議会へ：

当委員会は去る7月に、広報編集について学ぶため、全国でも最優秀賞等高いレベルを長年維持されている山梨県昭和町議会を訪れ、研修を実施しました。

■研修で学んだこと

「議会広報発行に関する条例」と「編集マニュアル」に基づいて編集することにより、委員が替わってもスムーズに作成し、高いレベルが維持できている。

・町民からの提言を取り入れ、



親しみのあるものにしていくという姿勢。

・地域住民との懇談、区長との意見交換会、議会モニター制度など議会改革に熱心に取り組まれ開かれた議会であることが紙面の充実につながっている。

・一般質問で質問された内容がその後のように町政に反映されたかを追跡したコーナーを設けていることで、議会の説明責任を果たし、議会の存在感のアピールにつながっている。

■研修成果を踏まえて

今回の議会だよりから学んだことを一つずつ実際の編集で実践していくとともに、編集マニュアルの策定に向けても取り組んでいきます。

議会広報特別委員会

委員長	森山 敏夫
副委員長	森島 芳男
委員	内山 英作
委員	松浦 博
委員	山田 義明
委員	岡山 富男